

1. 研究所活動報告

1. 研究所主催講演会

1982年度は次の講演会を開催した。

1982年2月19日 小林哲也教授（京都大学教育学部，元本学準教授）：
教員養成の問題点 — 國大協の調査結果をめぐって

2. 研究会

1982年度は次の研究会を開催した。

2月22日，村木正武教授：生成意味論の行方と Montague Grammar.

3. 研究助成金

本研究所のプロジェクト「大学入試における学力テストと能力テストの比較研究」に対して私学振興財団から学術研究振興資金として，1980年度140万円，1981年度160万円，第3年目の1982年度180万円の交付を受けた。

同研究プロジェクトは，(1)本学で過去20年以上にわたって入学者選抜のために用いてきた学習能力テストの妥当性を検討すること，(2)それらの評価項目と評価基準を見直して新たに設定すること，(3)従来の方法では評価が困難な能力・特性を多角的に評価できる新しい形式・内容のテストを開発すること，(4)各種テスト結果のコンピューターによる集計方法が入学者選抜に対してもつ功罪の検討を行うことを目的としている。上記の4課題の各々について以下の4研究班が組織され，各研究班ごとに課題と取組みながら，他の研究班との協議・討論を行い，研究全体の計画達成を期している。

第1班：分担課題「領域別テストの妥当性の検討」 原一雄（主査），石川光男，石本菅生，川瀬謙一郎，J・エドワード・キダー，リチャード・リンディ，三宅彰

第2班：分担課題「領域別評価と基準の検討および新しい設定」 星野命（主査），阿久津喜弘，ベン・C・デューク，勝見充行，川瀬謙一郎，J・エドワード・キダー，小林栄智，リチャード・リンディ，三宅彰，中野照海，讃岐和家，ランドルフ・H・スラッシャー

第3班：分担課題「創造性などの新形式・内容をもった能力テストの開発」 石川光男（主査），小林栄智，中野照海，ランドルフ・H・スラッシャー

第4班：分担課題「大学入試へのコンピューター導入の功罪の検討」 石本菅生，
 (主査)，阿久津喜弘，勝見充行，野崎昭弘
 同プロジェクト研究報告書は，近日中に出版の予定である。

研究室活動報告

教育哲学研究室

研究室としての組織的活動としては，7月末のICU卒業生の教職員研究集会，
 9月初の大学院学生を中心とする研究セミナーをのぞいて特記すべきものはない，

金子武蔵客員教授

本年度の演習は，チュービンゲン時代からフランクフルト時代にいたるヘーゲル
 の思索の跡づけを，主に泉教論を中心としておこなった。

川瀬謙一郎教授

I. 研究活動

共同体の構造とこれを支えるエートスの研究

II. 学会活動その他

教育哲学会会誌「教育哲学研究」編集委員会常任委員。

科学研究費による「教育実習の内容と方法及び教育的意義についての総合的研究」
 (代表者 お茶の水大学小口忠彦教授)に参加。

讃岐和家教授

I. 研究活動

- 1 キリスト教に基づく教育哲学，および教員養成問題の研究を前年に引き続いて
 行った。
- 2 文部省科学研究助成金による共同研究「教職導入教育の実験的研究」(研究代表
 者は早稲田大学の鈴木慎一教授)に研究分担者として参加。

II. 学会活動

- 1 1981年9月12,13日，日本デューイ学会大会(明星大学で開催)に出席。
- 2 1981年10月17,18日，教育哲学会大会(甲南女子大学で開催)に出席。
- 3 1982年5月29,30日，日本哲学会大会(沖縄国際大学で開催)に出席。

III. 論文等

- 1 杉浦宏(編)『アメリカ教育哲学の展望』(清水弘文堂刊)に，「第1章 伝統主
 義」を寄稿，1981年10月。

- 2 「現代日本における教職観の一考察、『ICU教育研究』24, 1982年3月。

IV. その他

- 1 日本教育学会 学会誌編集委員
- 2 一般教育学会 学会誌編集委員
- 3 文部省 一般教育視学委員
- 4 三鷹市 社会教育委員
- 5 キリスト教学校教育同盟 キリスト教学校教師養成事業委員会委員, および同委員会主催第2回研究セミナー実行委員長。
- 6 『東北学院時報』第378号(1981年10月15日発行)に、「最近のアメリカにおける一般教育の動向」を寄稿。
- 7 1982年1月6日, 明治学院勤務員修養会において、「キリスト教主義学校は現代の教育問題にいかに対応すべきか」と題する講演を行った。

立川 明助教授

I 研究活動

数年来のテーマである19世紀アメリカの大学と科学をいぜん研究し続けている。とくにこの2, 3年は, 応用科学の隆盛を, 当時の大学に起こりつつあった変容・改革, 例えば選択制の導入(著作1), 或はハーヴァードの『私立』大学化といった出来事と結びつけて(本号にその一部を掲載), 大学史の広い文脈の中にその意味あいを位置づけようとしている。

また, 日本教育史上のいくつかの出来事, 特に教科書の国定化の歴史的背景, 帝国大学の自治慣行と田中耕太郎の大学区案の成立, に関しても研究を進めている。

II 学会活動

1981年10月1～2日, 教育史学会(於静岡大学)に参加した。

III 著作(研究論文のみ)

1. “The American Scientists and the Rise of the Elective Principle.” 国際基督教大学学報 I - A 『教育研究』24, 1982, pp. 55-89.
2. 「19世紀アメリカの大学と科学(II)」『大学史研究』3, 1982, pp. 40-54.

IV その他

日本教育学会『教育学研究』の英文校閲係。

林 昭道講師

I 研究活動

ドイツを中心に, 近代ヨーロッパの思想史及教育諸概念成立の流れを追う。特に, ゲーテ, シュプラランガーの著作を中心とする。

II 著 作

1. 「ジョルダン・ブルーノの自然哲学——カッシーラー『認識の問題』の所説を中心に」『教育研究』24 (1982), pp. 91~104.
2. 「改革教育学」, 「クリーク」, 「合科教授」, 「作業学校運動」, 「自由ヴァルドルフ学校」, 「シュプランガー」, 「ディースターヴェーク」, 「ディルタイ」, 「田園教育舎」, 「ナトルプ」, 「フレーベル」, 「フンボルト」, 「ペスタロッチ」, 「ヘルバルト」, 『教育小事典』学陽書房 (1982)

長 清子教授

I 研究活動

1. 個人研究として
 - a. 近代日本における天皇制の研究
 - b. 近代日本の歴史観
 - c. 日本思想史における価値観の変容(非連続)と連続の問題——日本文化のアーキタイプをめぐって——
2. アジア文化研究所の同僚との共同研究
 - a. 「アジアにおけるキリスト教比較年表」の作成。
 アジア諸国の学者や他大学の学者らの協力をもえて長年にわたって取組んできたキリスト教比較年表がようやく完成, 1983年3月末に創文社より出版の予定である。英語版も現在準備中である。
 - b. 「アジア社会の近代化の学際的研究」がアジア文化研究所員によって進行中であり, 1982年4月にはICUに於てシンポジウムを開催した。『アジア文化研究』第14号に発表の予定である。

II 学会活動

1. 日本イギリス哲学会第6回総会・研究大会 (1982年4月2日~3日, 於国学院大学) に於て, 連続テーマのシンポジウム「日本におけるイギリス思想の受容」VI——「教育勅語とその思想的波紋」において, 「臣民教育思想の定着とリベラリズムの地下水——竹越興三郎をめぐって——」と題し, 特別報告。

III 論文

1. 「末広鉄腸における日本とアジア——明治期“歴史意識”の一類型——」『アジア文化研究』第13号, 1981年11月。(pp71-88)
2. 「自由民権百年と女性——清水紫琴をめぐって——」『毎日新聞』1981年11月11日。

IV その他

1. 「自由と歴史をめぐって」田中浩編『哲学と自由』御茶の水書房, 1981年9月11日。

2. 「今、アジアを考える意味—— 施行35年、憲法の原点に立ち ——」『信濃毎日新聞』（新年号論文）1982年1月1日。
3. 「人間の尊厳と人間のこわさ」『教会婦人』1982年6月1日。
4. UBCHEA (United Board for Christian Higher Education in Asia) のアジアの高等教育に関する Consultation に参加。1982年3月26日～28日、於香港。
5. 国際文化会館評議員
教育哲学会理事、同編集委員
日本イギリス哲学会理事
UBCHEA 評議員、他

B. C. Duke 教授

I 研究活動

- (1) Great Educators From Asia : Japan (Volume I). Supported by a grant from Nihon Gakujuutsu Shinkokai.
- (2) Great Educators from Asia : Philippines (Volume II) Supported by a grant from Nihon Gakujuutsu Shinkokai.
- (3) Educational Documents in Postwar Japan : 1952-1960 (Volume I).
- (4) The Pacific War in American and Japanese High School Textbooks.

II その他

English Editor, Educational Research (Kyoiku Kenkyu), The Japan Education Association.

村瀬良子助手

1. 訳本（共訳）：パウロ・フレイレ『伝達か対話か—— 関係変革の教育学 ——』亜紀書房・AALA 叢書 1982.
2. 翻訳（共訳）：「野口晴哉語録」『全生』全生社 1981-1982.
3. ヘーゲルにおけるアイテールの概念の研究。

高橋浩助手

I 研究活動

- 1) ボルノーの「希望の哲学」における生の構造論についての検討。
- 2) 現代における教育人間学の方法論研究。
- 3) ICU金子武蔵講義録編集委員会の編集会議の定期的開催と講義録の出版準備。

II 学会発表

1981年10月17日、教育哲学会第24回大会（甲南女子大）において、「ボルノー“希望の哲学”における“信”の特質」を発表。

山口和孝助手

I 研究活動

1. アジアの教育思想家を国際社会に紹介するためのプロジェクトの企画立案及び研究。このプロジェクトは“Great Educators from East Asia—An Asian Perspective—”の名で進められており，第一段階(日本)の研究は，日本学術振興会より研究助成を受けて行われている。
2. 戦後の日本教育行政史に関する英文史料集 (Educational Documents in Post-war Japan) 第一巻 (1952年～60年) の編纂。

II 学会発表

1. 「訓導と教導職」, 第25回教育史学会 静岡大学。
2. 「近代公教育制度の確立と教導職」, 日本宗教学会第40回学術大会 筑波大学。

III 研究論文

「訓導と教導職」『教育研究』24, 1982年, 国際基督教大学。

IV その他活動

第5回ICU教育セミナー(青山会館)主催

山室吉孝助手

I 研究活動

1. アメリカ・ピューリタニズムとJ. デューイとの関係についての研究。(1982年10月17日, 日本デューイ学会において発表)
2. ヘーゲル研究(金子武蔵客員教授の講義録編集に参加)

II 学会活動

1. 1981年度, 日本デューイ学会(星美大学)に参加。

心理学研究室報告 (1981年9月1日～1982年8月31日)

・1981年9月1日より一年間の予定で都留春夫教授が研究休暇をとった。非常勤助手として佐野里樹が勤務についた。

・1981年9月2日～5日 心理学サマーセミナー 於天城山荘, 「みてる? しってる? かんじてる?」の統一テーマのもとに学部学生, 大学院生, 教官, 約80名が参加。分科会を中心に, シンポジウム, 親睦会等の諸行事を行なった。

・1981年11月12日, テキサス州南メソジスト大学教授 Dr. J.R. Strange の講演会をシーベリーチャペルにおいて行なった。

演題は, “The History of the Concept of Consciousness in Psychology” で, 教員を含め約20名が出席した。

- ・1982年1月23日, 修士論文発表会を行ない, 5名がそれぞれ, 約30分ずつ研究発表と質疑応答を行なった。
- ・1982年2月13日に卒業論文発表会を行ない, 21名が研究発表した。教員を含め60余名が出席した。
- ・1982年2月22日 教育学科主催心理学コロキウム 苧阪良二氏 演題「心理学食べある記」 於シーベリーチャペル 30余名出席。
- ・1982年4月より, 中谷, 弘兼両非常勤助手が辞任し, 佐藤哲男, 吉川巖両名が代って勤務についた。
- ・1982年6月7日 卒業論文発表会(6月卒業生)を行ない, 3名が研究発表した。
- ・1982年6月17日, Dr. C. A. Mahler 講演(カリフォルニア州立大学教授) 於シーベリーチャペル 演題“A Framework for Group Counseling”
VTRを使用しながらの講演。小グループを編成して, 模擬カウンセリングも行なわれた。同時通訳あり。
- ・1982年7月5日～7月8日, 心理学サマーセミナー 於多摩ロッジ, 統一テーマ「現代社会と心理学」, 約70名の学部生, 大学院生, 教官が参加。

原 一雄教授

I 研究活動

- 1) 大脳半球の機能的非対称性
- 2) ニコチンの精神薬理・行動遺伝学的研究(文部省科学研究費一般B, 課題番号545019, 三年次継続中)
- 3) 大学教育の総合評価——国際基督教大学教養学部に関する統計資料の収集(教養学部の在り方に関する研究・調査委員会報告書82～164頁掲載)
- 4) 大学入試学習能力検査の妥当性に関する研究(日本私学振興財団助成金による国際基督教大学教育研究所共同研究第1班主査)

II 著作

- 1) 「半球優位——機能的非対称性の意味するもの」サイコロジー 1982, 6, 28-35.
- 2) 「動物学習に及ぼすニコチンの影響 その3:マウスの反復逆転学習セットに及ぼすニコチン効果の臨界期に関する研究」たばこ総合研究センター TASC 研究報告 82WA0707 Pp.27.
- 3) (監訳) R.E. ソートン(編)「喫煙行動」専売弘済会 1982 Pp.577.
- 4) (座談会)「特集・子どもの類型」現代幼児教育(Vol. 13) 1982, 2 Pp.22.
- 5) (監修)「大学の経営と行政」外国教育事情 10号 日本私立大学連盟 1982, 7-60.

III その他

- 1) 1982年8月9～20日 第6回ICU言語科学夏期講座において「言語の生物心理学的基礎」を担当。
- 2) 1982年8月22日 The Second International Conference on the Language Sciencesにおいて司会。
- 3) 1982年8月28,29日 第4回ICU神経言語学研究会をF.C.パン教授と主催。
- 4) 日本心理学会『心理学研究』、『Japanese Psychological Research』編集委員。
- 5) 日本基礎心理学会運営・編集委員。
- 6) 生理心理学・精神生理学懇話会運営委員。
- 7) 日本私立大学連盟外国教育事情調査員会主査。

星野 命教授

I 研究活動

前年度に引き続き1981年度も国際児童年記念東京大学特別研究「子どもの発育と生活に関する国際的比較研究」プロジェクト（代表者：小林登教授）の「家族の文化人類学的研究」の分担研究者として、「東南アジアの子どもの生活と精神発達」の研究を続行した。前年度の西マレーシア現地研究とは別に、タイの幼児の母子関係について、先年チュラルンコン大学のマルクール・プラサン教授らの協力で集めた母親との面接資料を日本国内の同様の資料と比較検討した。主として子どもの感情生活・社会的行動、つまり怒り・悲しみ・不安・フラストレーションを身近の成人の誰によって処理するか、交友・所有をめぐる行動の特徴などについて、日・タイ間に見られる異同を分析し、上記研究プロジェクトの研究会（5月10日学士会館本郷分館）で発表した。

アメリカ・ハーバード大学教育学研究科スタッフとの共同研究“Bernard Van Leer Project on Human Potential”は、昨年に続いて1982年5月17日～21日、東京都内で“Tokyo Conference”を行ない、ハーバード大からは、Dr. Robert LeVineをはじめ Merry White および Leonie Gordon が来日、日本側は、岩男寿美子・永野重史・深沢道子の三氏と星野のほか、大阪大学人間科学部の浜口恵俊氏、国立教育研究所の木田宏所長、明治大学の山田雄一氏らも部分的に参加して緊密な意見交換を行ない、後日送られてきた協議語録を検討修正するなどの責任を果たした。

九学会連合の共同課題「日本の風土」には日本心理学会から青山学院大学長谷川浩一氏と星野が参加し、分担課題として「幼少期の『原風景』としての心理的風土」を選んで、文献研究とフィールド・ワークを行なった。すなわち、幼少期の記憶にあり、かつ現在の自分にとって何らかの意味で機能している「風景」、または「情景」を記述している文章の実例を選ぶとともに、北陸の都市の短大生100名に「半構成式質問紙」に回答を求め、その結果を内容分析したほか、12月上旬に5日間、岐阜県

大野郡高鷲村に赴いて、村の有志に面接し、その『原風景』の聞き書きを行なった。
(これらの成果は、下記のIIIに掲げる文献参照)

以上のほか1982年の2月、4月、6月、10月に「文化と人間の会」(異文化間心理学研究会の別称)を都区内および福島県郡山の東北歯科大学で開催し、会員・ゲストの研究発表と討論を主宰した。この研究会の活動については近く「年報」を刊行する予定。

II 学会出席・研究発表等

1981年8月10～13日台北の台湾大学で開かれた Asian Conference on Cross cultural Psychology に出席し、京都大学教育学部の梅本堯夫教授と連名で、「日本における心理学の発展」について口頭発表を行った。これには白井常東京女子大名誉教授の追加コメントや質問が加えられた。(その内容を補完したものは、香港大学の Dr. G. H. Blowers の編集で他のアジア各国の分とあわせ公刊される予定)

同年8月25～28日、東北大学教養部において開催された日本教育心理学会第23回大会総会に参加し、準備委員会企画シンポジウムとして行われた「校内暴力と青年心理学」の第一・第二セッションに、宇都宮大学の佐々木保行教授とともに司会をつとめた。

同じく9月17～19日、東京虎の門の国立教育会館で行われた日本心理学会第45回大会に参加し、シンポジウムの一つ「バイリンガリズムとバイカルチュラリズム：特に在外帰国子女の問題をめぐって」(企画者：東洋東京大教授)の司会をつとめた。

同月21～22日に成城大学で行われた日本社会心理学会第22回大会ではシンポジウムI「日本的コミュニケーションの特徴」において司会を担当した。

1982年3月20～21日福岡市内の黒田荘で行われた「第7回コミュニティ心理学シンポジウム」に参加し、最終セッションの司会をつとめた。

3月24～25日、名古屋市内の愛知会館で開催された九学会連合の調査研究会の総括討論に参加した。また5月8日に法政大学で開かれた九学会連合の年次大会に参加し、長谷川浩一氏と連名で「幼少年期の原風景としての風土(その2)」を発表し、質疑応答にも参加した。

7月10～11日、京都女子大学で開催されたヒューマニスティック心理学研究会大会(当日「日本人間性心理学会」へと発展改称した)に参加し、「ヒューマニスティック心理学の逆説」と題して口頭発表を行った。7月12～14日、京都国際会議場で行われた日本心理学会第46回大会に参加した。また、7月15日明石市の舞子ビラで行われた第5回人間主義心理学会に参加して「幼少期の原風景のパターンと心理的意味」と題して口頭発表を行った。

7月18日、青山学院で行われた九学会連合調査研究会に参加した。

7月25～31日、スコットランド・エジンバラ市で開催された第20回国際応用心理学会に参加した。また、同じ期間中(7.28)に行われた国際心理科学連合(IUSP)の代議員会に東洋東大教授、金子隆芳筑波大教授とともに出席した。

III 著作・論文

An Elaboration of the "CULTURE SHOCK" phenomenon: Adjustment problems of Japanese youth returning from overseas, R.C. Nann (ed.) Uprooting and Surviving, 109-110, 1982, D.Reidel Publishing Company.

「幼少期の原風景としての風土, 序報: その心理的意味とパターン」(長谷川浩一との共同研究) 九学会連合編『人類科学』(九学会連合年報) 34号(「日本の風土」特集号), 1981, 45-75頁。

「1981年世界精神衛生マニラ会議」『世界の児童と母性』(海外福祉情報) 第14号, 財団法人資生堂社会福祉事業財団, 1982, 28-29頁。

「環境と子供的人格形成」, 編, 『子供と都市』学陽書房, 1982, 145-149頁。

「なつかしき個人広告」, 『日経広告手帖』日本経済新聞社, 1982, 16-17頁。

「優越感の心理・劣等感の心理」, 『青年心理』第33号, 金子書房, 1982, 6-20頁。

「一通の手紙から — 考えと体験」, 『いまここで・IPR研究会トレーニング資料』, IPR研究会, 1982, 33-35頁。

VI その他

1981年9月より日本心理学会の理事の一人に選出された。また、前年度に引き続き同学会発行の『心理学研究』および“Psychological Research”両誌の編集委員, 日本社会心理学会理事, 異文化間教育学会の理事をつとめている。1982年5月23日に設立された日本心理臨床学会の設立発起人の一人として, 倫理委員会の代表をつとめている。

次の諸大学の非常勤講師をつとめた。

1981.12.3～5日, 北陸学院短期大学保育科「精神衛生」, 12.25・26日, 筑波大学心理学系大学院「異文化間心理学」, 聖心女子大学文学部「対人コミュニケーションの社会心理」(1982年7月まで)

下記の演題で講演を行った。

1981.10.24 「異文化のはざまに生きる日本人 三鷹市民国際大学」(於ICU)

同 10.31 「異文化体験のもたらすもの」文部省帰国子女教育教員講習会(於筑波国立教育会館分館)

同 11.7 「感情教育の問題」福島大学教育学部主催講演会

同 11.14 「青年の異文化体験と民族的アイデンティティ」青年心理学研究会(於静岡大学)

1982.1.10 「学校カウンセラーの役割と基本態度」香川学校カウンセリング研究会(於高松)

1982.5.26 海外赴任家族のためのオリエンテーション」親業訓練協会（於日本青年館）

同 8.1 「対人コミュニケーションの諸問題」日本電電公社調査室（於日比谷同公社）

同 8.5～7 カウンセリング・ワークショップ，香川学校カウンセリング研究会・堺カウンセリングセンター共催（於小豆島内海町福田くさか旅館）

同 8.27～31 カウンセリング・ワークショップ，全日本カウンセリング協議会主催（於岡山市 桃太郎荘）

以上のほか前年度に引き続き「文化と人間」の会の例会を隔月に開催し主宰した。

都留春夫教授

1981年9月1日より1982年8月31日まで研究休暇を与えられ，前半は国内，後半は米国を中心にして研究をした。

II 研究活動

- (1) グループ・アプローチに関する理論と実際についての研究
- (2) フォーカシングの技法の開発と応用に関する研究
- (3) カウンセリングの事例研究

II 学会・大会出席等

- (1) 心理臨床家の集い（京都）出席。1981年12月6～7日
- (2) American Group Psychotherapy Association, annual meeting and Institute. (New York) 参加。1982年2月11～15日
- (3) 異文化間教育学会大会 出席。1982年4月24～25日
- (4) National Association of Foreign Student Affairs (NAFSA) 大会 (Seattle) 参加。分科会 “Issues of Foreign Student Counseling” 指導。1982年5月24～28日

III 著作

- (1) （共訳）E.T. Gendlin 著「フォーカシング」（村山正治・都留春夫・村瀬孝雄訳）福村出版 1982年
- (2) 『児童心理』（金子書房発行）
 - (a) 「ひとりよがりの子」——その心理と功罪。第36巻,第7号（1982）97～102頁
 - (b) （書評）J.M.ライスマン著「臨床心理学の歴史」第36巻,第12号（1982）187頁
- (3) 『カウンセリング』（全日本カウンセリング協議会発行）
 - (a) 「フォーカシング勉強会ノート<3>」第13巻,第4号（1982）No.54 13～19頁

(b) 「ジェンドリンのフォーカシング」第14巻, 第1号 (1982) No. 55 22-28頁

IV その他

- (1) 国立療養所幹部看護婦(リーダーシップ育成)研修会。1981年10月5-16日(東京)講師
- (2) 東京大学教育学部。特別講義(「グループ・アプローチ」)1981年10月13日
- (3) ホライズン心理・教育センター。月例ホライズン・イベント(「ジェンドリンのフォーカシングについて」)(東京)講師 1981年11月15日
- (4) フォーカシングセミナー。主催 福岡人間関係研究会(福岡)講師 1981年11月21-23日
- (5) 第16回JICEトレーナー・トレーニングB。主催 立教大学キリスト教教育研究所(清里)参加 1981年12月8-12日
- (6) 第66回PCAウィークエンド合宿(保田)スタッフ 1982年1月26-30日
- (7) 第3回グループ臨床カンファレンス。主催 福岡人間関係研究会(福岡)講演「アメリカにおける最近のグループの現状」,事例研究コメンター。1982年3月19-21日
- (8) Weekend Trainings in Focusing. 主催 The Focusing Institute (Chicago) 参加。1982年3月26-28日
- (9) ホライズン・1日・スペシャル・セミナー(フォーカシング講習会)主催 ホライズン心理・教育センター(東京)講師。1982年4月10日
- (10) 臨床グループ・アプローチ研究会(CGAI)(広島)発表「ある精神力動グループの記録」。1982年5月14-16日
- (11) Advanced Training For Foreign Student Advisors. 主催 University of Minnesota. (Minneapolis) 講師。1982年6月13-18日
- (12) 研究のための出張, International Student Advisors Office, University of Minnesota. 1982年5月-8月
- (13) 講演 NAFSA, Hawaii-H P G A 共同主催 Luncheon Meeting (Honolulu)(「日本におけるカウンセリングの発展と展望」) 1982年8月16日
- (14) 第72回PCAウィークエンド合宿(箱根)スタッフ。1982年8月24-28日
- (15) 月例フォーカシング勉強会(東京)講師
- (16) 月例カウンセリング事例研究会(東京)参加
- (17) カウンセリング・教育分析担当。日本精神技術研究所カウンセリング・ルーム 毎週1回

栗山容子講師

I 研究活動

乳幼児の初期言語及び象徴遊びの実験データをもとに,物の操作の象徴水準を仮

説的に設定し、言語発達との対応関係を検討している。特に、先行研究(国内外の)との比較、検討を含み、理論的な側面からこれまで行なってきた研究を前進させている。

また、研究会を通して、認知及びその発達の問題、社会的相互作用の問題などを、主として文献を中心に比較検討を行なっている。

II 学会発表等

・日本心理学会第45回大会に於て「初期言語発達と象徴遊びの発生 (7)象徴水準の分析, (8)行動連鎖の分析」発表, 9.17~9.20 1981.

・日本心理学会第46回大会に於て「同上, (9)場面構成遊びへの過程, (10)感覚運動的操作と後の言語発達」共同発表, 7.12~7.14 1982.

III 著 作

「文の自然さの判定による動詞分類の試み」 国際基督教大学学報 1-A 教育研究, 24, 1982, 133~155.

IV そ の 他

教育研究所コロキウム「初期言語発達とその認知的基礎」 2.26. 1982.

向井敦子助手

I 研究活動

- (1) 幼児におけるひらがなの読みと書きに関する研究。
- (2) 筆者等の作成した心理学的行動座標を、自己保存系との関係で検討。
- (3) 3名の幼児を対象とした幼児の行動の形成と変容の過程の縦断的観察。

II 学会発表

- (1) 1981年9月, 日本心理学会第45回大会において, 「『ひらがな』の受信及び配列構成と音声信号の分化度との関係の探索 — 幼児を手がかりにして (I) (II)」を発表 (同論文集 p.349-350) (深谷澄男・川瀬正裕との共同研究, 向井は (I) を口頭発表)
- (2) 1982年7月, 日本心理学会第46回大会において, 「ひらがなの弁別・構成要因の検討 I. 目的と方法, II. 高校生の同定傾向の分析, III. 幼児の同定傾向の分析, IV. 高校生と幼児の比較」を発表 (同予稿集 p.194-196) (深谷澄男・川瀬正裕・斎藤舘との共同研究, 向井はIVを口頭発表)

III 著 作

「行動体制の形成と心理学的工作についての省察: ある幼児における『ピアノ弾き』行動形成のエピソードを手掛りとして」 国際基督教大学学報 I-A 教育研究, 1982, 24, 157-184 (深谷澄男との共著)

視聴覚教育研究室

当研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会は、1981年10月3日、4日の両日、島根大学（松江市）で連合大会（日本視聴覚教育学会第18回大会・日本放送教育学会第26回大会）を開催した。教員全員と大学院生がこれに出席した。

1980年4月から2ケ年間常勤助手として勤務した浜野保樹助手は、1982年3月末日をもって退職し、新潟大学へ転出した。

阿久津喜弘教授

I 研究活動

- (1) 「学校内非行の原因およびその指導・対策に関する総合的研究」（昭和57年度科学研究費補助による総合研究）。
- (2) 「日本型コミュニケーション・プロセスの研究——異文化との比較において」（昭和57年度三菱財団人文科学研究助成による共同研究）。
- (3) 「新・教育社会学辞典」の共同編集。
- (4) 第33回日本教育社会学会大会（1981年9月12日—14日、東洋大学）における「現代の子ども」研究部会を司会。同大会における国際シンポジウム「日本教育の力学——義務教育を中心として」のコーディネーター（『教育社会学研究第37集』197—202頁に報告）。
- (5) 「現代教育研究会」および「コミュニケーション研究会」の一員として、研究会活動。

II 著作

- (1) 「情報化社会の教育的特質」『Brummell』（第3巻現代社会）学習研究社、1981年12月、214—217頁。
- (2) 「生活とマス・メディア」松原治郎・山本英治共編『人間生活の社会学』垣内出版、1982年4月、97—115頁。
- (3) 「学級におけるコミュニケーションの諸相」『教職研修』10巻8号、1982年4月、63—67頁。

III その他

- (1) 日本視聴覚教育学会理事・編集委員。
- (2) 日本放送教育学会理事・編集委員。
- (3) 日本教育社会学会評議員・国際交流委員。
- (4) 大学セミナーハウス 共同セミナー委員。

中野照海教授

I 研究活動

- 1) 教育工学の理念・方法・技法に関する資料の収集と体系化の試み（一部編集者として出版。）
- 2) 視聴覚教育の評価に関する研究（「視聴覚教育の研究と評価」として1983年度中に出版予定）。
- 3) 文部省特定研究「大学放送教育学習方法の研究」（1981年4月より）に参加。
- 4) 文部省特定研究「大学放送教育番組の適正化に関する調査研究」（1981年4月より）に参加。
- 5) 文部省特定研究「大学における教育方法の改善」（1981年3月まで）に参加。
- 6) 放送文化基金「映像と教育」（1981年3月まで）参加。
- 7) The Third Asian Seminar on Educational Technology, “Educational Technology and Teacher Education — How Educational Technology can Contribute to Improve Teacher Education,” (Key-note speech), Oct. 27. 1981, Tokyo.
- 8) 第1回大学放送教育研究シンポジウム「放送を利用した大学教育における学習方法の研究」パネリスト, 1981年11月19日, 放送教育開発センター。

II 著作

- 1) 「映画・テレビによる認知能力の促進をめぐって」, 『視聴覚教育』10月号, 1981年, 28-31頁。
- 2) 「映像の情意的機能, 特に態度変容をめぐって」, 『視聴覚教育』11月号, 1981年, 28-31頁。
- 3) 「映像のキューの整理をめぐって」, 『視聴覚教育』12月号, 1981年, 46-49頁。
- 4) 「視聴覚教材の開発と形成的評価」, 『視聴覚教育』1月号, 1982年, 46-49頁。
- 5) 「メディア選択の評価基準をめぐって」, 『視聴覚教育』2月号, 1982年, 36-39頁。
- 6) 「画像の効果の研究をめぐって」, 『視聴覚教育』3月号, 1982年, 38-41頁。
- 7) 「視聴覚教育システムの評価」, 『視聴覚教育』4月号, 1982年, 28-31頁。
- 8) 「放送教育に影響を与えた人びと2 — シュラムと教育放送」, 『放送教育』5月号, 1982年, 50-53頁。
- 9) 「放送教育に影響を与えた人びと4 — ホーバンと教育映画研究」, 『放送教育』7月号, 1982年, 54-57頁。
- 10) 「知識と情操を育てる放送教育」, 『放送教育』10月号, 1982年, 84-88頁。
- 11) 「放送教育に影響を与えた人びと8 — スキナーと行動形成理論」, 『放送教育』

11月号, 1982年, 54-57頁。

- 12) 「放送の利用による豊かな教育活動」, 『埼玉教育』 10月号, 1982年, 2-5頁。
- 13) 共編著 (大内茂男筑波大教授と), 『教育工学シリーズ 第1巻 授業の設計と実施』, 『教育工学シリーズ 第2巻 教授メディアの選択と活用』, 『教育工学シリーズ 第3巻 授業の組織と運営』, 『教育工学シリーズ 第4巻 教科・領域の指導I』, 『教育工学シリーズ 第5巻 教科・領域の指導II』, 『教育工学シリーズ 第6巻 教科・領域の指導III』, 図書文化, 1982年9月発行。

III その他

- 1) 神奈川県教育委員会「放送による効果的な授業の展開」(講義), 1981年10月23日 (神奈川県教育センター), 1981年10月29日 (厚木・愛甲地区教育事務所)
- 2) 埼玉県教育委員会・放送教育研究会「放送教育運動の歩みと課題」(基調講演), 1981年12月18日 (浦和市自治会館)
- 3) NHKテレビ「埼玉大会のめざすもの—学ぶ喜びの学習—」, 1981年5月20日
- 4) NHKラジオ「知識と情操を育てる放送教育」, 1982年6月24日
- 5) 国際協力事業団「技術教育の諸問題」(講義), 1982年6月28日 (アジア経済研究所)
- 6) 全国中学校放送教育連盟「放送の利用と授業の設計」(基調講演), 1982年7月29日 (池之端文化会館)
- 7) 埼玉県教育センター「学校放送の効果的利用」(講義), 1982年8月11日
- 8) 国際協力事業団「技術教育の開発と実際」(講義), 1982年11月9日 (アジア経済研究所)
- 9) NHKテレビ「埼玉大会を終えて」, 1982年11月13日
- 10) NHKラジオ「外国語教育の新たな展望」, 1982年11月20日
- 11) 学会等における委員
 - a. 日本視聴覚教育学会常任理事, 同学会「視聴覚教育研究」編集委員。
 - b. 日本放送教育学会常任理事, 同学会誌「放送教育研究」編集委員長。
 - c. 「日本教育工学雑誌」(文部省・教育工学センター協議会) 常任編集委員・編集幹事。
 - d. 日本語学ラボラトリー学会評議員。
 - e. 教育放送審議会(文部省)委員。
 - f. 視聴覚センター, ライブラリー小委員会(文部省)委員。
 - g. 日本教育工学協会理事。
 - h. 「視聴覚教育賞」(文部省・日本視聴覚教育協会) 選考委員。
 - i. NHK学校放送諮問委員会(東京都)委員。
 - j. 国立放送教育開発センター委員。

k. 国立民族学博物館展示委員会委員。

石本菅生準教授

I 研究活動

- (1) マイクロコンピュータによるマークカード採点システム ILC-MARK 1 の開発。
- (2) マイクロコンピュータを用いたスピードリーディングの訓練効果とトレーナーシステムの開発（寺田祐二と共同）。
- (3) ワードプロセッシング・ソフトウェアを応用したテスト項目作成・管理システムの開発。

II 著作

- (1) 授業実践に生かす教育工学シリーズ(3) 授業の組織と運営 第4章教育情報の活用
- (2) マイクロコンピュータによるCAIコースウェア作成／実行システム，教育研究 p.185～205.
- (3) Index to Computer-Based Learning に見るコンピュータの学習利用開発の推移，教育研究 p.283～294.

III その他

日本視聴覚教育学会常任理事
日本教育工学雑誌編集委員

理科教育法研究室

ウォース教授と柿内教授はそれぞれ一年間と半年の研究休暇を終え、1982年4月に帰任された。三宅彰教授は数年にわたって務められた教育研究所長と図書館長の職を辞され、1982年4月より一年間の研究休暇を取っておられる。勝見充行教授は計算センター所長を務める一方新築された総合学習センター長をも兼ておられる。

当研究室においては元教授の原島鮮先生をも交えて以下のフォーラムを行った。

1982年4月24日 台湾東海大学副教授高振華氏(元大学院生)：台湾における理科教育の現況

石川光男教授

I 研究活動

1. 生体高分子に対する放射線効果
2. 理科教育におけるコンピューターの利用法と総合的評価法の開発
3. 自然科学と宗教に関する学際研究

4. 大学入試における学力テストと能力テストの比較研究（教育研究所プロジェクト）の一環として、新しいテスト問題の開発と分析

II 学会発表等

1. 遠紫外線によるDNA主鎖切断の電気泳動による分析：日本放射線影響学会，1981年9月16日，東海大学
2. マイクロコンピューターを利用した物理教育教材の試作：日本物理学会分科会，1982年3月31日，横浜国立大学

III 著作

1. Circular Dichroism and Electrophoretic Analysis of Far-UV Irradiation on Nucleic Acid: Progr. Polymer Phys. Japan, 24 (1981) 673-674. (K. Takakura, M. Ishikawa)
2. Electrophoretic Analysis of Calf Thymus DNA Degradated by Far-UV Light: J. Radiation Research. 23 (1982) 25. (K. Takakura, M. Ishikawa)
3. 生命科学と宗教のかけ橋：「たま」第16号，1981年，45-51
4. 多次元的入試の方向と試み：「学研・進学情報」第15巻，第5号，1982年，8-10

IV その他

1. 講演「生命と精神」：心霊科学講座，1982年8月23日，東京
2. 研究助成金，「精神の能動的作用に関する科学的研究」，日本学際会議
3. 書評「生命潮流」：「たま」第18号，1982年，8-10
4. 国際ストレス科学研究所設立発起人
5. 第3回学際研究会議実行委員

柿内賢信教授

I 著書

自然科学と教育（編） 「人間の教育を考える」講談社（1981）

II 論文

Science of Matter: A place where physics and chemistry meet. Part I. Atoms and molecules in "An Integrating Approach to Science Education" (1981)

II 研究発表

Creativity for Development, International Conference on Creativity in Science, San Jose, Costa Rica (1982)

赤外線吸収からみた水の液体構造（II） 温度および触媒効果，日本物理学会春の分科会（1982）

科学の進歩と選択の自由，ICU，科学と社会セミナー（1981）

IV 学会等役職

日本科学教育学会顧問

一般教育学会理事

財団法人 俱進会理事長

学校法人 音羽幼稚園理事

宗教法人 グレゴリオの家 宗教音楽研究所理事

日米科学協力事業委員会委員

日本育英会選考委員

Foreign Advisory Member, Asian Society for Physic Education.

V 研究題目

- (1) 水および水溶液の分光光学
- (2) 自然認識の原初的形態に関する社会学的研究
- (3) 学習の過程の分析

三宅 彰教授

I 研究活動

1982年4月1日より1年間研究休暇。同8月1日よりシカゴ大学ジェームズ・フランク研究所に6ヶ月間客員研究員として滞在。研究題目はくりこみ群の方法の鎖状高分子への応用、特に星形高分子の統計への応用。

II 学会発表

三宅彰：枝分れ高分子のスケーリング則，高分子学会第31回年次大会（1982年5月31日）

III 著作

A. Miyake: Scaling Laws for Starlike Polymers, Repts. Progr. Polym. Phys. Japan, 25 (1982) 23-26

共訳：A.R.ブライス著「高分子の電氣的性質」培風館（昭和57年9月30日発行）

IV その他

社団法人日本物理学会監事：1980年9月1日 — 1982年8月31日

財団法人大学セミナーハウス評議員：1976年4月 — 現在

同運営委員：1980年8月 — 1982年5月

同常務理事：1982年6月 — 現在

ドナルド・C・ウォース教授

I 研究活動

Studies On Utilization Of Solar-Thermal and Solar-Electrical Energy

* (October 1, 1981—March 1, 1982: Visiting Researcher, Lawrence Berkeley

Lab., University of California at Berkeley — participated in group research on Small- (Carbon) – Particle Heat Exchange Receiver Project for solar-thermal energy utilization.)

II 学会発表等

- * “Physics And Integrated Science Courses In The New Japanese High School Science Curriculum”, presented at the American Association of Physics Teachers’ Annual Summer Meeting, June 16–19, 1981 at Stevens Point, Wisconsin, U.S.A.
- * “A General Education Course On The Development And Relevance Of The Energy Concept”, presented at the International Conference On Energy Education, Providence, Rhode Island, U.S.A., August 4–7, 1981.

III 学会活動

- * American Physical Society, Spring Meeting, April 20–23, 1981, Baltimore, Maryland, USA
- * American Section, International Solar Energy Society, Annual Meeting, May 26–29, 1981, Philadelphia, Pennsylvania, USA
- * Workshop On Micro-Computers (June 15, 1981) and Annual Summer Meeting, American Association Of Physics Teachers (June 16–19, 1981) at Stevens Point, Wisconsin, USA
- * International Conference On Energy Education (August 4–7, 1981) at Providence, Rhode Island, USA
- * World Congress On Solar Energy (August 24–28, 1981) at International Convention Center, Brighton, England.
- * Meeting Of Northern California Section, American Association Of Physics Teachers, October 18, 1981, at Stockton, California, USA
- * Annual Winter Meetings of American Physical Society, January 25–29, 1982, at San Francisco, California, USA

IV 著作

- * * “Development Of the Energy Concept– I”, General Education Series, International Christian University, January 1981
- * : These items and activities occurred during my Research Leave (*Kenkyu-Kyuka*), April 1, 1981–March 31, 1982 and, as a result of my being overseas in the fall of 1981, were not previously reported in *Educational Studies*.
- * * : Although this item occurred before my Research Leave (*Kenkyu-Kyuka*), April 1, 1981–March 31, 1982, since I was in the USA in the fall of 1981,

it was not previously reported in *Educational Studies*.

勝見允行教授

I 研究活動

植物ホルモン，特にジベレリンの作用機構の研究。ジベレリンによる細胞伸長誘導が，糖代謝の調節と関連していることを調べている。また，ジベレリン突然変異株のトウモロコシ矮性種を用いて，ジベレリンによって誘導される生化学的変化を検討している。

II 学会発表等

- 1) 勝見允行・風間晴子・吉村博美：キウリ下胚軸表皮細胞の透過性に及ぼすジベレリンの影響，日本植物生理学会年会，1982年5月，松本
- 2) 風間晴子・勝見允行・舛本寛：キウリ下胚軸伸長と表皮葉緑体デンプンの生成1，ジベレリンによる調節，日本植物学会第47回大会，1982年9月，東京
- 3) Katsumi, M., H. Kazama and H. Yoshimura : Effect of GA₃ on the membrane permeability of the epidermal cells of cucumber hypocotyls. 11th International Conference on Plant Growth Substances, July, 1982, Aberystwyth (Wales)
- 4) ジベレリンによる伸長作用と糖代謝の調節，特定研究「生物生産の場における生理的・化学的調節」——植物の生長分化過程の生理・生化学的解析と制御——シンポジウム 1982年5月，筑波

III 著作

- 1) Katsumi, M., H. Kazama, J. Yamada and Y. Matsumura : Gibberellin-induced suppression of chloroplast starch formation from exogenous sucrose in isolated epidermis of light-grown cucumber hypocotyls. *Plant Cell Physiol.* 23:953-958 (1982).
- 2) 植物生理学7. 成長(古谷雅樹編)，第2章，器官の成長 pp.5~31，第4章4節，ジベレリン pp.115-131，朝倉書店，1982
- 3) 江上信雄・勝見允行編，実験生物学講座1，生物材料調製法 pp.358，丸善，1982

IV その他

- 1) 講演：国際基督教大学におけるCAIシステムについて，IBM教育機関インダストリー・エグゼクティブ・セミナー，1982年4月，天城
- 2) 日本植物生理学会編集委員
植物化学調節研究会編集委員
International Plant Growth Substances Association Council, member.

山口俊夫教授

I 研究活動

- 1) 筋収縮抑制効果と膜活動の関係に関する研究。
- 2) 昆虫の除神経による筋細胞のグルタメート感受性に関する研究。

英語教育研究室

1. 1981年12月, 語学科と協力して, *Descriptive and Applied Linguistics* 第15巻を発行。
2. 1982年6月, Barnhard D. Harder 準教授 (英語学) が, Canada, Ontario の University of Windsor に戻られた。
3. 1982年8月26日, 27日, 語学科に協力, 第21回 I C U 夏季言語学研究会を開催。研究発表数20, Paul Kiparsky 教授 (MIT), 梶田優教授 (東京学芸大) による講演があった。参加者約250名。
4. 1982年8月28日, 29日, 東京言語学セミナー (I C U 分会実行委員は井上和子教授, 村木正武教授) 「生成文法の最近の動向」の一環として, I C U に於いて, Paul Kiparsky, Alec Marantz, Mark Liberman, 大津由起雄氏の講演があった。国際基督教大学学術交流基金, 上智大学国際言語情報研究所, 筑波英語教育学会, 筑波英語学会の後援を得て行われたものである。参加者約200名。
5. 1982年9月22日, 24日, University of Washington の Joe Emonds 教授を招いて, 言語学のセミナーを開く。参加者約60名。

井上和子教授

I 研究活動

- (1) 文部省科学研究費, 特定研究『情報化社会における言語の標準化』の「明確で論理的な日本語の表現」研究班の研究代表者。(日本語の文—文法と談話文法の相関関係の研究)
- (2) 文部省科学研究費, 特定研究『学術動向の調査研究』— 研究代表者・岡村総吾— の研究分担者として「言語学班」の代表者。(前年に引続き, 言語学の諸分野の研究動向調査)
- (3) 放送文化基金による「日本語の談話構造」の研究代表者。(主として放送に見られる談話構造の研究)

II 学会発表等

- (1) Arizona 大学で講演, “Problems in Lexical Grammar,” 81年10月23日
- (2) Harvard 大学で講演, “Japanese Case marking” 81年11月18日

- (3) Massachusetts 大学 Amherst 校で講演, “Lexicalist Approach to Japanese Syntax” 81年11月20日

III 著 作

- (1) 「言語学の研究動向」『言語』1982, Vol.11, No.4, 101-103.
 (2) 「コミュニケーションの発達」 医学研究振興財団編, 『人の成長には何が必要か——シンポジウム「成長と発達」より』166-182.
 (3) “An Interface of Syntax, Semantics, and Discourse Structures,” *Lingua* 57, 259-300.
 (4) “Transformational vs Lexical Analysis of Japanese Complex Predicates,” in *the Linguistic Society of Korea (ed.) Linguistics in the Morning Calm*, 379-412.

IV そ の 他

- (1) 北海道大学へ集中講義, 81年9月14日~20日
 (2) 琉球大学へ集中講義, 81年12月9日~23日
 (3) 文部省学術審議会委員, 1978~
 (4) ユネスコ国内委員, 1978~
 (5) 第13回国際言語学者会議事務総長
 (6) *Linguistics* (published by Mouton) の編集委員
 (7) *Natural language & Linguistic Theory* (published by D.Reidel Publishing Company) の編集委員
 (8) 国際言語学者常置委員会 (CIPL) の実行委員会委員
 (9) 東京外国語大学アジア・アフリカ研究所運営委員
 (10) 日本言語学会委員, 会計監査
 (11) 大学英語教育学会評議員
 (12) 「言語学研究の動向」『学術月報』 Vol.35, No.3 (June, 1982), 172-176.
 (13) 「国際言語学者だより」, 1-6 『言語』 1982, Vol.11, No.4からNo.9まで

小林栄智教授

・1982年度から実施されはじめた「新指導要領」にもとづき, 中学・高校の英語教科書が改訂あるいは新しく作られている。この新しい傾向・内容はやがて大学の英語教育にも関係してくる。これまで教科書の分野は無知に近い状態であったが, 機会があたえられて, 今年は「新高校英語 I」の共同執筆をしている。大学の, しかも, 特定の大学の英語教育しか知らないものには, 高校1年の英語には新しいこと, 珍しいことの続出で, 限られた日時の間になんかものができるか心配しながら作業を進めている。

・“ICUにおける外国語教育——英語の場合”, IDE・現代の高等教育, No

229 (1982), 29-34.

- ・「基本英単語・熟語」(監修), 桐原書店, 1982, 248頁
- ・「Basic Practice in English Pronunciation」(監修), 三修社, 1983, 80頁, カセット4本

リチャード・リンディ教授

I 研究活動

Teaching "Teaching Methods in English" to new, non-Japanese missionary teachers:

- 1) 3 hours: 30 JNAC missionary Associates. October, 1981.
- 2) a group of five Lutherans. 4 hours. Lutheran Center, Ichigaya. January, 1982.
- 3) a group of five Lutherans (a separate group). three 2-hour sessions, here at ICU. April, 1982.

Research:

On-going Mombusho-sponsored research with others (the faculty members of FEP) on the Standardization of College English Teaching.

Private: reading and study of English phonetics and preparation of pronunciation materials for FEP and "Advanced Pronunciation."

II 著作

Kairyudo. "New Prince" (Mombusho-text.)

Also for Kairyudo: several series of "side-readers" for both Middle School and High School levels; a series called "Mighty English;" several texts on composition, etc. (I also edited another text for College-level reading, *Let's Communicate*. Hitsubashi Shuppan. With Dr. Mitsuko Saito.)

村木正武教授

I 研究活動

1. 音韻論における naturalness の問題
2. 生成意味論とモンタギュー文法
3. 日本語の談話構造

II 学会発表等

1. "Generative semantics and Montague Grammar," 教育研究所, ICU, 1982年2月22日.
2. 「生成意味論の行方とモンタギュー文法」, 特定研究: 学術動向の調査研究 (言語班 班長: 井上和子教授), 上智大学, 1982年3月13日.

3. “Linguistic anomalies and nonlinguistic anomalies,” 第21回 I C U 夏季言語学研究会, I C U, 1982年8月27日.

III 著 作

1. 「書評：坂井秀寿著(1979)『日本語の文法と論理』, 勁草書房, 『英語学(English Linguistics)』, 開拓社, 第24巻 114~122頁, 1981.
2. “Two types of rule orderings”, *Annual reports*, language Division, ICU, 7: 137-145, 1982.
3. 「生成意味論とモンタギュー文法」, 井上和子編, 『言語学研究の動向調査報告：科学研究費(特定研究)(1)学術研究動向の調査研究』, 27~28頁, 1982.
4. “Propositional negation and constituent negation”, 『教育研究』, I C U, 第24巻 246~263頁, 1982.
5. 『新英語学辞典』, 研究社; 変形文法に関する16項目, 1982.

IV そ の 他

1. Organizer, Working Group 28, “Characteristics of Japanese expressions in news reporting”, the 13th International Congress of Linguists, Nihon Toshi Center, September 1, 1982.

F. C. バン教授

I 著 作

- (1) *Current Issues in Neurolinguistics: A Japanese Contribution*, edited, Supplemental Volume to *Language Sciences*, Tokyo: ICU language Sciences Summer Institute, 1981.
- (2) *Male and Female Differences in Japanese*, edited, Tokyo: The East-West Sign language Association, 1981.
- (3) “Neurolinguistics Today,” in *Current Issues in Neurolinguistics: A Japanese Contribution*, 1981.
- (4) “On the Differences in the Distribution of Gray and White Matter in Human Cerebral Hemispheres,” in *Current Issues in Neurolinguistics: A Japanese Contribution*, 1981.
- (5) “Central Nervous System Control of Language (1): Towards a Theory of Neurolinguistics,” in *Current Issues in Neurolinguistics: A Japanese Contribution*, 1981.
- (6) “Epilogue,” in *Current Issues in Neurolinguistics: A Japanese Contribution*, 1981.
- (7) 「概論」, in *Male and Female Differences in Japanese*, 1981.
- (8) 「発話回数と文の数種類」, in *Male and Female Differences in Japanese*,

1981.

- (9) 「動詞の形態」, in *Male and Female Differences in Japanese*, 1981.
- (10) 「言順例置」, with Osamu Takahara, in *Male and Female Differences in Japanese*, 1981.
- (11) 「生後二年間の言語発達率と運動神経の相関係 — 四つの事例に基づく一考察」, in *Aspects of Language Acquisition*, 1981.
- (12) *Language Sciences*, Vol.4, No1, Editor, 1982.
- (13) *Language Sciences*, Vol.4, No2, Editor, 1982.
- (14) *Social Behavior and Language Acquisition* (言語の社会性と習得), edited with Koji Akiyama and Tsuneo Yamaguchi, Hiroshima: Bunka Hyoron Publishing Company, 1982.
- (15) 「呼称の社会学」, 『日英語比較講座』, 国広哲郎編, 東京, 大修館書店
- (16) 「社会言語学の課題」, 雑誌『言語』特集, 10月号
- (17) “The Place of Sociolinguistics in Language Sciences,,” *Sociolinguistics Newsletter*, Vol. XIII, No 1, Spring / Summer.

2. 大学院教育学研究科修士論文

1982年3月卒業者 18名

A. 教育哲学

- 木村 祐子 『成人教育の現状と課題 — 生涯教育の見地からの展望 —』
徳永 依理 『アウグスティヌスの「教師論」について』

B. 教育心理学

- 青木由香利 『ある分裂病患者の面接とスーパーヴィジョン』
小島 正敏 『援助行動に関する判断の帰属理論的分析
— 大学生の場合 —』
中谷 智一 『情動判断に於ける言語的及び非言語的文脈の効果』
西垣 悦代 『幼児における性別恒常性の水準と玩具選択行動に及ぼすモデルの効果との関連』
佐藤 哲男 『子供の愛他的行動と親子関係に関する研究』

C. 視聴覚教育法

- 神山 正人 『外国語学習における態度・動機の役割に関する実証的研究』
秦 喜美恵 『日本語熟達度測定法としてのクローズ法に関する実験的研究』

D. 英語教育法

- 本田 広昭 “A Study of Adverbial Conjunctions in *Beowulf*”
 川崎 典子 “A Study of Syntactic Representations”
 加藤木能文 “A Functional Approach to Extraction Phenomena”
 久保 善宏 “Remarks on Topicalization”
 中村 優治 “A Study of the Prepositions Introducing the Agents in the
 Passive Construction in *The Cloud of Unknowing*”
 成田 早苗 “On the Accent of Compound Nouns in the Standard
 Japanese”
 大柴 健一 “An Analysis of Errors on the Omission of English Relative
 Pronouns”

E. 理科教育法

- 中内恵理子 『気体・酸とアルカリ —— 中学理科の総合化の試み ——』
 山田 裕子 『中学生の学習能力の多様性』

1982年 6 月卒業生 7 名

A. 視聴覚教育法

- 高橋 静江 『視覚提示の特性の学習効果に関する実験的研究』

B. 英語教育法

- 岡本 政治 “A Study of English Vocabulary Teaching”
 ロバート・グリーン “Compound Noun Stress in English”
 福井 直樹 “A Study in the System of Constraints on Movement
 Transformations”
 中澤 恒子 “Associative Meanings of English Words —— A Study for
 Language Education —— ”
 庄司 良子 “An Analysis of Negative Intensifying Adverbs in
 Japanese”

C. 理科教育法

- 札野 順 『高校物理における科学的思考力の測定と評価』

3. 教育実習報告

1981年度教育実習には 112 名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1. 実習生総数 112名

男子 25名

女子 87名

2. 実習日程

- 1981年 5月2日～5月16日 弘前学院聖愛高（青森）
- 5月12日～5月23日 県立川越女子高（埼玉）
- 5月26日～6月8日 富士見町立富士見高原中（長野）
- 5月27日～6月9日 県立青森高（青森），県立船橋高（千葉）
- 6月1日～6月12日 金城学院中（愛知）
- 6月1日～6月13日 昭島市立清泉中，中野区立第四中，港区立高松中，杉並区立松ノ木中，葛飾区立葛美中，都立駒場高，都立小石川高，都立立川高，都立井草高，都立小松川高，都立町田高，都立三田高，東京学芸大学附属世田谷中，東京学芸大学附属高，東京学芸大学附属高大泉校舎，白百合学園中・高，桜蔭高，明治学院高，聖望学園高，国際基督教大学高（東京），道立小樽潮陵高（北海道），県立秋田高（秋田），県立桐生女子高，新島学園高（群馬），船橋市立葛飾中，船橋市立習志野台中，市川市立東国分中，県立柏高，県立木更津高（千葉），横浜市立岡村中，県立湘南高（神奈川），県立高田高，県立六日町高（新潟），県立諏訪清陵高，県立伊那北高，県立松本深志高，県立屋代高（長野），静岡市立東中，韮山町立韮山中（静岡），刈谷市立刈谷東中，愛知教育大学附属岡崎中，春日井市立藤山台中（愛知），大阪教育大学附属池田中，府立千里高，帝塚山学院高，清教学園高（大阪），県立嘉穂高（福岡），県立別府鶴見丘高（大分）
- 6月6日～6月20日 県立川本高（島根）
- 6月7日～6月20日 三鷹市立第二中（東京）
- 6月8日～6月20日 三鷹市立第一中，三鷹市立第六中，小金井市立南中，立川市立立川第三中，立川市立立川第九中，国分寺市

立第三中，保谷市立ひばりが丘中，杉並区立中瀬中，都立大泉高，都立戸山高，都立芝商業高，都立府中高，開成中・高，明星学園高，桜美林高，麻布高（東京），県立横手高（秋田），日上市立日高中（茨城），浦和明の星高（埼玉），横浜市立大綱中，大和市立鶴間中，県立豊田高（神奈川），北陸学院高（石川），富山市立南部中（富山），静岡雙葉高（静岡），帝塚山高（奈良），守口市立第二中（大阪），九州学院中（熊本）

- 6月15日～6月27日 横浜国大附属横浜中（神奈川）
 6月19日～7月2日 清泉女学院中・高（神奈川）
 6月22日～7月4日 小林聖心女子学院（兵庫）
 6月29日～7月11日 鶴川町立鶴川中（北海道），東北学院高（宮城）
 9月5日～9月19日 親和中（兵庫）
 9月8日～9月22日 日大第二高（東京）
 9月9日～9月22日 桐朋高（東京）
 9月9日～9月24日 桐朋高（東京），県立耐久高（和歌山）
 9月21日～10月3日 小金井市立東中（東京）
 10月1日～10月15日 茨城キリスト教学園高（茨城）
 10月5日～10月16日 青山学院中（東京）
 10月6日～10月22日 立教女学院中（東京）
 10月15日～10月28日 清泉女学院中・高（神奈川）
 11月2日～11月14日 県立多摩高（神奈川）
 11月16日～11月28日 世田谷区立松沢中（東京）

3. 実習協力校

学校名	教科	社会	理科	数学	英語	宗教	合計
三鷹市立第一中					2		2
三鷹市立第二中			1	1			2
三鷹市立第六中					1		1
小金井市立東中					1		1
小金井市立南中					1		1
立川市立立川第三中					1		1
立川市立立川第九中					1		1
国分寺市立第三中		1					1
保谷市立ひばりが丘中			1				1
昭島市立清泉中					1		1
杉並区立松ノ木中					1		1
杉並区立中瀬中					1		1
中野区立第四中			1				1
世田谷区立松沢中				1			1
港区立高松中					1		1
葛飾区立葛美中					1		1
東京学芸大附属世田谷中				1			1
開成中・高					1		1
青山学院中					1		1
立教女学院中					2		2
白百合学園中・高		1					1
鷓川町立鷓川中					1		1
日立市立日高中		1					1
船橋市立葛飾中					1		1
船橋市立習志野台中					1		1
市川市立東国分中					1		1
横浜市立岡村中					1		1
横浜市立大綱中					1		1
大和市立鶴間中					1		1
横浜国大附属横浜中					1		1
清泉女学院中・高					2		2
富山市立南部中					1		1
富士見町立富士見高原中					1		1
静岡市立東中					1		1

蕪山町立蕪山中				1		1
刈谷市立刈谷東中				1		1
愛知教育大附属岡崎中				1		1
春日井市立藤山台中				1		1
金城学院中				1		1
大阪教育大附属池田中				1		1
守口市立第二中				1		1
親和中				1		1
九州学院中				1		1
都立駒場高	1					1
都立小石川高	1					1
都立立川高	1			1		2
都立井草高				1		1
都立小松川高				1		1
都立町田高				2		2
都立三田高				1		1
都立大泉高				1		1
都立戸山高				1		1
都立芝商業高				1		1
都立府中高				1		1
東京学芸大附属高	1	1				2
東京学芸大附属高大泉				1		1
桜蔭高				1		1
明治学院高	1					1
聖望学園高				1		1
明星学園高				1		1
桜美林高				1		1
麻布高	1					1
日大第二高			1			1
桐朋高			1	1		2
国際基督教大高	2		2	1		5
北海道小樽潮陵高				1		1
青森県立青森高				1		1
弘前学院聖愛高	1					1
秋田県立秋田高				1		1
秋田県立横手高				1		1
東北学院高				1		1
群馬県立桐生女子高				1		1

新島学園高				1		1
埼玉県立川越女子高	1					1
浦和明の星女子高	.		1			1
茨城キリスト教学園高					1	1
千葉県立船橋高		1				1
千葉県立柏高				1		1
千葉県立木更津高				1		1
神奈川県立多摩高				1		1
神奈川県立湘南高			1			1
神奈川県立豊田高				1		1
新潟県立高田高				1		1
新潟県立六日町高				1		1
長野県諏訪清陵高				1		1
長野県伊那北高				1		1
長野県松本深志高				1		1
長野県屋代高				1		1
北陸学院高				1		1
静岡雙葉高				1		1
帝塚山高				1		1
和歌山県立耐久高				1		1
大阪府立千里高				1		1
帝塚山学院高				1		1
清教学園高				1		1
小林聖心女子学院		1		1		2
島根県立川本高				1		1
福岡県立嘉穂高				1		1
大分県立別府鶴見高				1		1
合 計	13	8	7	83	1	112

4. 学科別および男女別

学 科	性 別	男	女	合 計
人 文 学 科		3	9	12
社 会 学 科		4	11	15
理 学 科		5	8	13
語 学 科		4	44	48
教 育 学 科		4	12	16
教育学研究科		0	1	1
行政学研究科		0	0	0
比較文化研究科		1	0	1
聴 講 生		4	2	6
合 計		25	87	112

5. 教員免許状取得状況

1982年3月卒業生375名中，教員免許状を取得した学生の詳細は次のとおりである。(聴講生を除く)

教養学部

学 科	免許状取得者実数	中 学 校 教 諭 一級免許状	高 等 学 校 教 諭 二級免許状
人 文 学 科	11	14	14
社 会 学 科	14	13	15
理 学 科	12	11	12
語 学 科	40	31	40
教 育 学 科	15	13	26
合 計	92	82	97

学 科	社 会		理 科		数 学		英 語		宗 教	
	中学 一級	高校 二級	中学 一級	高校 二級	中学 一級	高校 二級	中学 一級	高校 二級	中学 一級	高校 二級
人 文 学 科	2	2					9	9	3	3
社 会 学 科	7	9					6	6		
理 学 科			7	7	4	5				
語 学 科							31	40		
教 育 学 科		1				1	13	14		
合 計	9	12	7	7	4	6	59	69	3	3

大 学 院

高等学校教諭一級免許状取得者数は1982年3月現在で0である。

6. 教員就職状況

公立中学校： 男2名（社1，英1） 女2名（英2）
 公立高等学校： 男4名（英4） 女6名（社1，英5）
 私立中学校： 男2名（理1，英1） 女4名（理1，英3）

4. ひ と の う ご き

■新任・就任・異動・退任

佐野 里樹助手 （非常勤）（心理学）：81年9月より着任。
 阿久津喜弘教授 （教育コミュニケーション学）：82年4月；教養学部副部長に就任。
 星野 命教授 （心理学）：82年4月；教育学科長に就任。
 小林 栄智教授 （英語学）：82年4月；フレッシュマン・イングリッシュ・プログラム主任に就任。
 中野 照海教授 （教育工学・視聴覚教育）：82年4月；教育研究所長に就任。
 讃岐 和家教授 （教育哲学）：82年4月；大学院教育学研究科長，専攻科長，教職課程プログラム主任に就任。
 飯塚 信子秘書 （AVセンター）：81年9月より総合学習センターへ移動。
 浜野 保樹助手 （視聴覚教育）：82年3月退任。

■休職・帰任

井上 和子教授 （言語学）：82年4月；一年間の休暇より帰任。
 柿内 賢信大学院教授 （物理学）：82年4月；半年間の休暇より帰任。
 讃岐 和家教授 （教育哲学）：81年9月；一年間の休暇より帰任。
 三宅 彰教授 （物理学）：82年4月より83年3月迄休暇。